

平成17年度 学生生活実態調査集計結果（抜粋）

配布と回収

- ・ 1・2年生については、必修科目の授業時間に、科目担当教員を通じて協力依頼・配布し、3・4年生については、ゼミ・卒業研究等を通じて配布した。
- ・ 昨年度に引き続き、マークシート方式により調査を行った。
- ・ 7/4～7/29を調査期間とし、授業後に回収する他、学生課前と看護棟事務室前に回収箱を設置して回収した。

調査対象者数： 1,348人
 回答者数： 652人
 回収率： 48.4% (昨年度：44.8%)

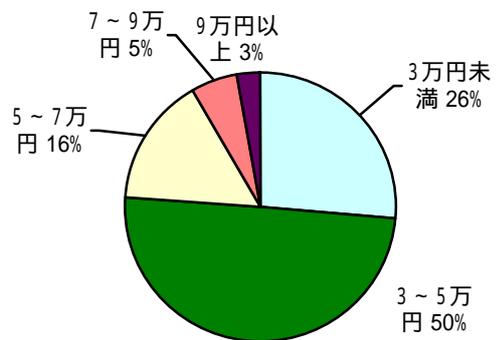
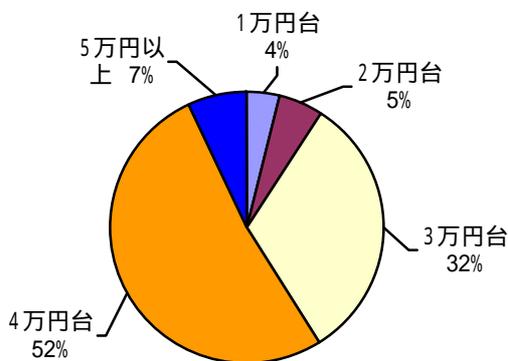
集計結果

《生活状況について》

(1)から(4)までは自宅外通学者のみ回答

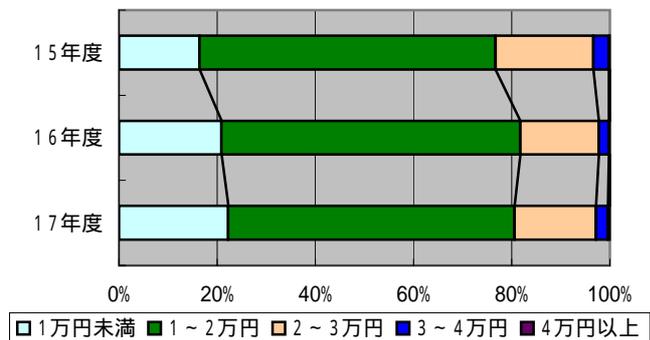
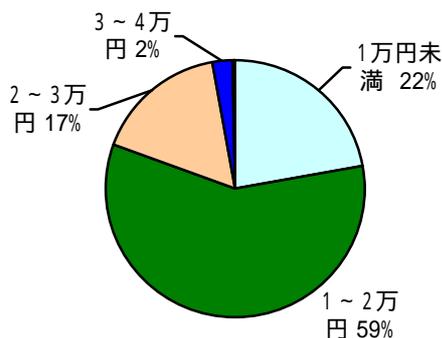
(1) 1ヶ月の家賃(共益費・駐車場代を含む)

(2) 月平均生活費(授業料、家賃を除く)



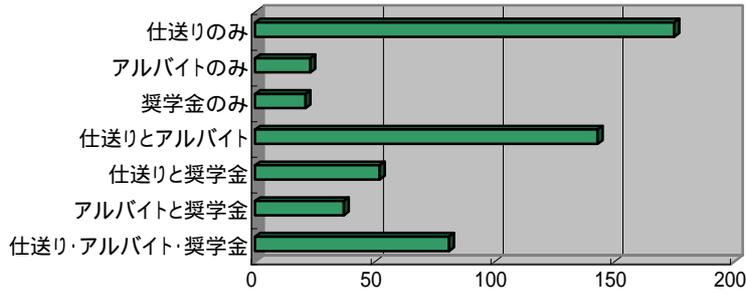
1ヶ月の家賃は、各学年とも4万円台が最も多く、半数を占めています。月平均の生活費は、各学年とも3～5万円台が最も多く、約半数を占めています。

(3) 月平均食費

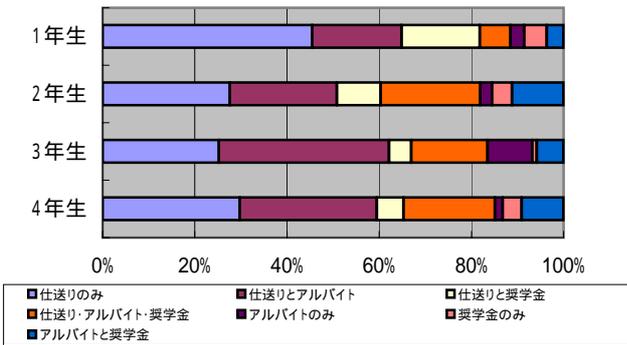


生活費のうち食費の占める割合は、1～2万円台が最も多く、約6割を占めています。次いで、1万円未満が約2割と、約8割が2万円未満で食費をまかなっています。生活費が低いほど食費を抑えようとしていることも推測されますが、栄養管理に十分配慮した学生生活を心がけましょう。

(4) 生活費の財源 (複数回答)

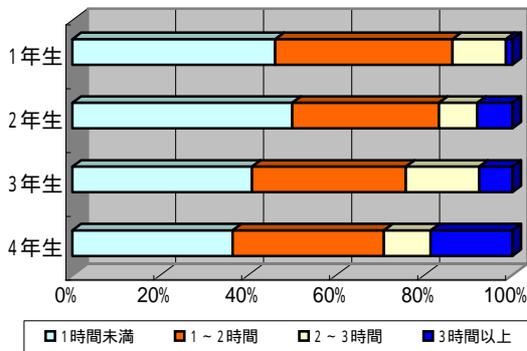


【学年別】 仕送りなし



生活費の財源は、仕送りのみが約3割と最も多くなっていますが、学年が進行するほどアルバイト代を生活費に充てている傾向があります。一方、仕送りの全くない学生が2年生では約2割います。経済的な負担は、精神的負担ともなるので、生活に困ったら相談してみましょう。また、大学も学生のみなさんが安心して生活できるように、相談体制を充実していきたいと思ひます。

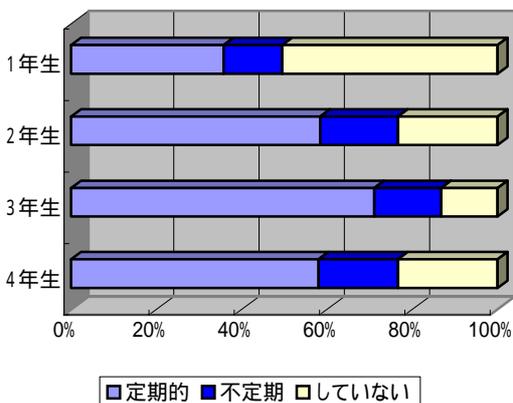
(5) 1日当たりの授業外学習時間



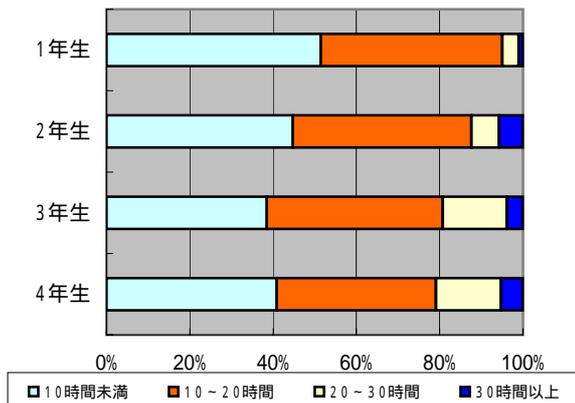
1日当たりの学習時間は1時間未満が最も多く、学年が進行するにつれ学習時間が長くなる傾向にあります。しかし、週平均アルバイト時間と比較すると、学習よりもアルバイトに費やす時間が圧倒的に多いと推察されます。アルバイトも大学生活においてよい経験となりますが、あくまでも学生のみなさんの本分は学業です。

大学生活を充実したものにするために、学業を柱とした生活設計を十分した上で、アルバイトの可能性について検討してみてください。アルバイトを理由として学業がおろそかにならないよう気をつけましょう。

(6) アルバイト実施状況

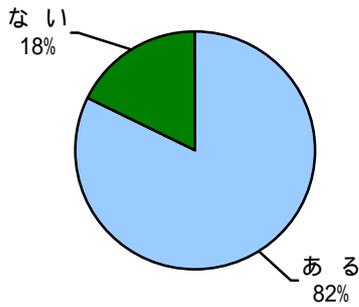


(週平均アルバイト従事時間)

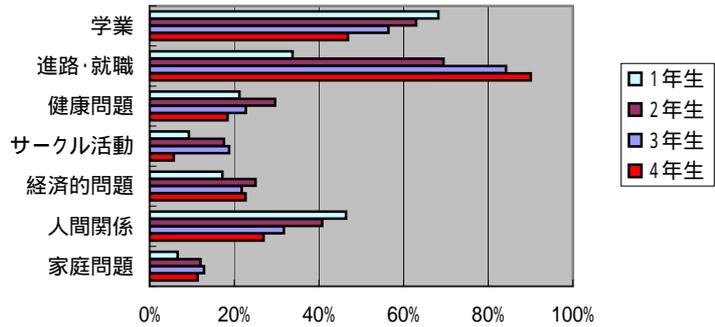


《悩みごとについて》

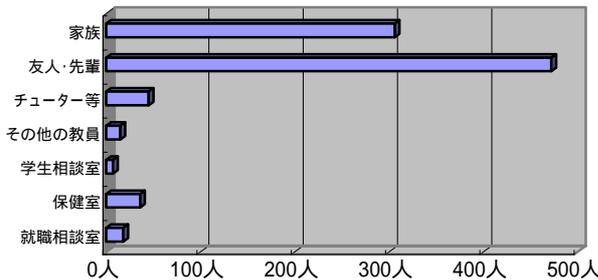
(7) 悩みごとの有無



(内容) 複数回答

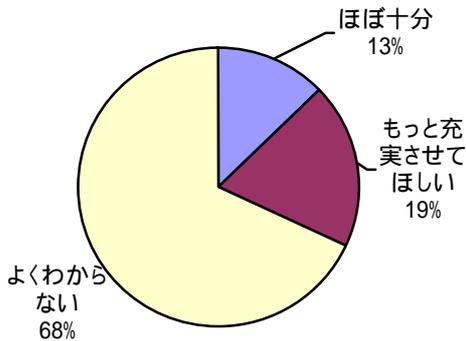


(8) 悩みごとの相談相手(複数回答)



約8割の学生が、悩みごとがあると回答しています。1年生は学業が顕著で、2年生以降は進路・就職が増加傾向にあり、4年生ではさらに顕著です。人間関係も全体の約4割弱を占めており、特に1・2年生に顕著です。

(9) 大学の相談対応の体制について

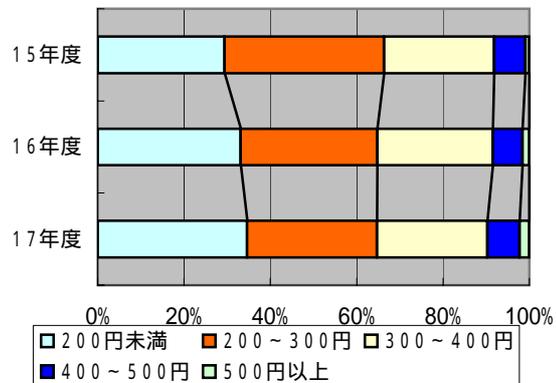
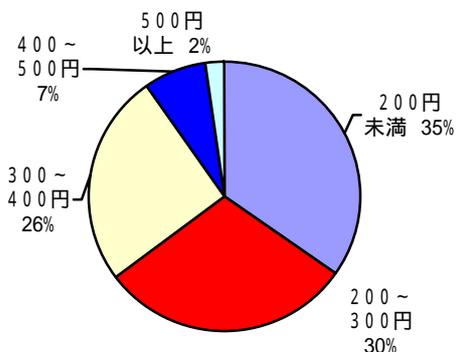


相談相手は友人・先輩が最も多く、次いで家族となっています。相談相手がいない学生もわずかですが存在します。

青春時代に悩みはつきものです。その悩みを越えたところに新たな世界が広がります。一人で悩むことも必要ですが、一人でくよくよしているより誰かに相談した方がよい解決が得られることも稀ではありません。大学にもカウンセラーがいますし、保健室・チューターの先生もいます。些細なことでも、誰かの戸をたたいてみてください。

《健康等について》

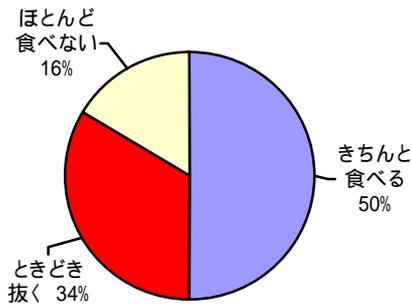
(10) 平均的昼食代



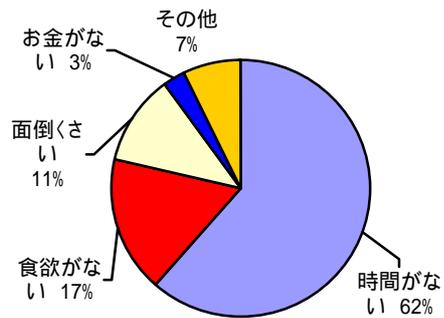
200円未満の昼食で大丈夫ですか？

健康的な食生活には、知恵と工夫とある程度のお金は必要です。食事代を節約したいなら、知恵と工夫を忘れずに。

(11)朝食摂取状況



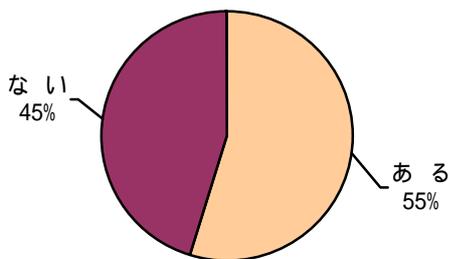
(朝食を抜く人の理由)



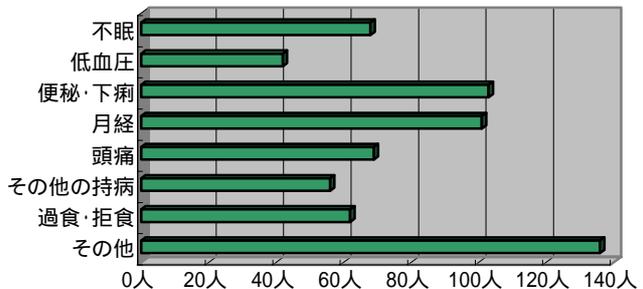
朝食抜きは、体調不良や貧血、そればかりか“太りやすい体質”の原因となりますので要注意。

朝食を食べないのは「時間がない」ためという人が約6割ですが、1時間早く起きたら、朝食時間のおつりとして、とても贅沢なひとときを持つことができますよ。そのためには、さてどうする？考えてみましょう。

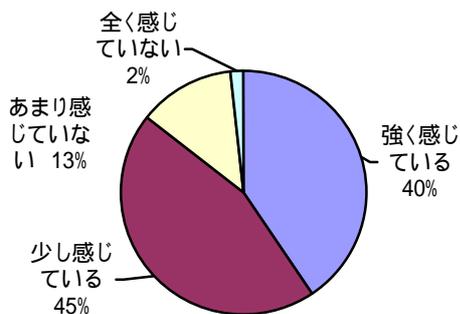
(12)健康面での悩みや不安



(内容) 複数回答



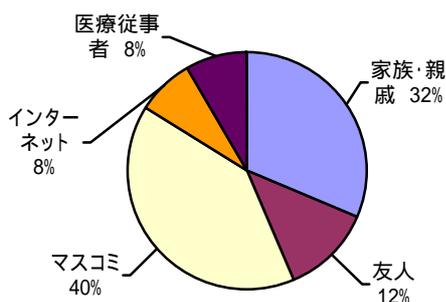
(13)自分の健康管理の必要性を感じているか



健康面での不安や悩みのベスト1は「便秘・下痢」です。2位以下は「月経に関すること」「頭痛」「不眠」となっています。いずれも日々の生活習慣と深く関係しているようですね。

「ゼミがあるから」「バイトがあるから」「部活があるから」「就職活動があるから」と、忙しく日々を送っている人こそ、ちょっと自分の生活を振り返ってみましょう。これらの症状は、あなたの身体や心が発しているSOSのメッセージかもしれません。

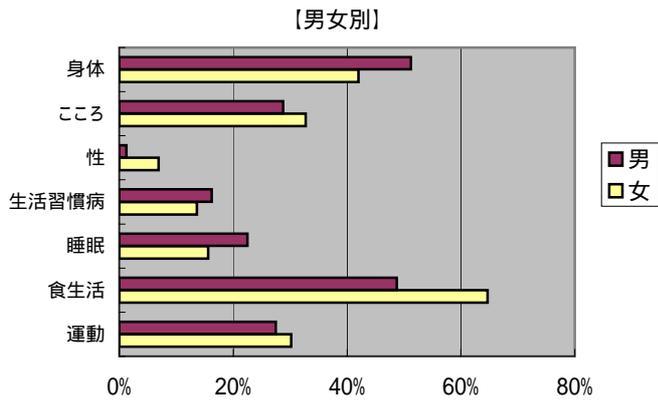
(14)健康管理に必要な情報を何から得ているか



今の生活は変えられないと思っているあなた！「このまま放っておいたら...」ですよ。

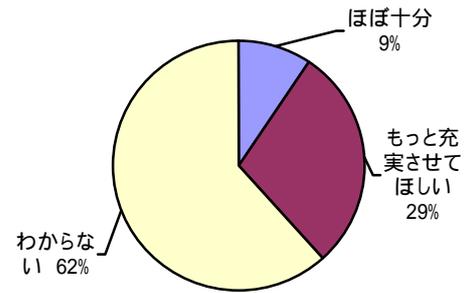
「運動」「栄養」「休養」は、健康づくりの3要素です。この視点から生活を見直してみましょう。

(15)健康管理のために必要な情報のテーマ(2つまで)

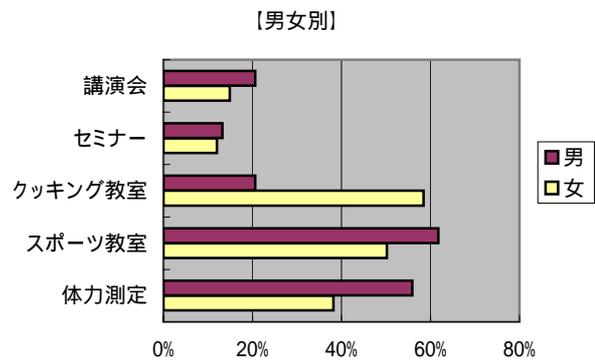
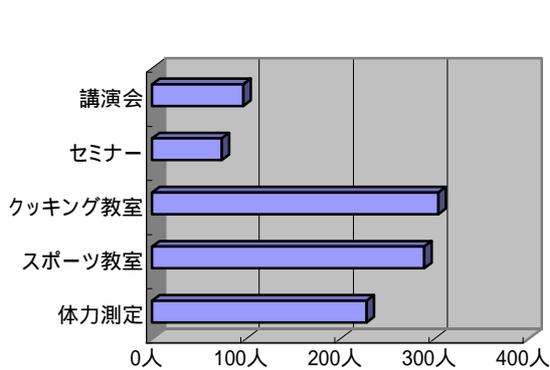


(母数:本設問の回答者数)

(16)健康管理に関する大学の支援について



(17)参加したい企画(2つまで)

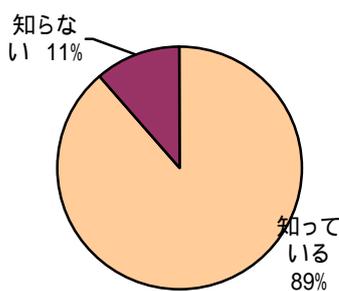


(母数:本設問の回答者数)

学生部健康支援プロジェクトでは、学生の皆さんの健康増進のための活動を行っています。気軽に参加してみてください。

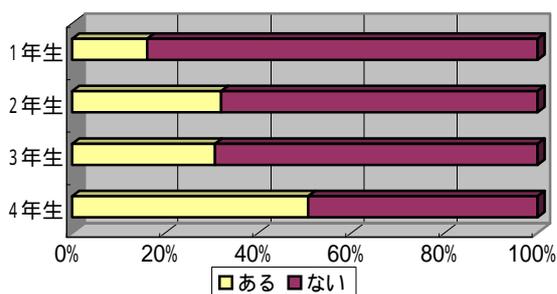
(チューター制について)

(18)自分のチューターを知っているか



自分のチューターを知らない学生が11%もあります。詳しく見ると学年別では1年生に、学部別では生活科学部に知らない学生が多いという結果です。教員側から、自分がチューターであることを担当の学生にもっと知ってもらおう努力する必要があると考えられます。

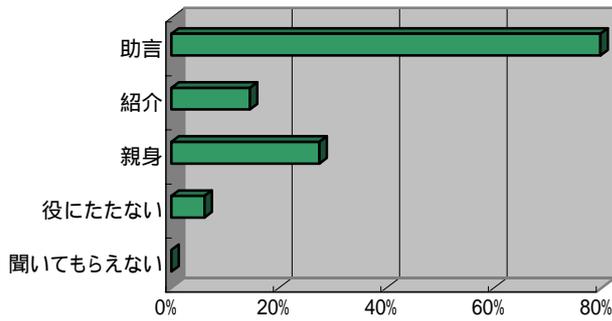
(19)「チューターを知っている」と答えた人にお聞きします。今までチューターに何か相談したことがありますか。



在学年数の長い4年生の相談経験が多く見られました。

(20) チューターに相談したことがある人にお聞きします。相談した結果はどうでしたか。(2つまで)

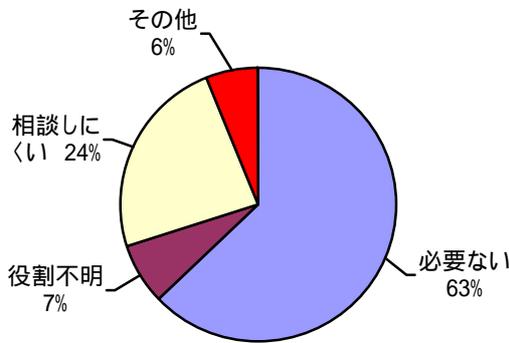
1. チューターから解決策等の助言をもらえた 2. 担当部署や相談窓口を紹介してもらえた 3. 1,2のような具体的な助言はなかったが親身になって聞いてもらえた 4. 具体的な助言がなく、あまり役に立たなかった 5. 話を聞いてもらえなかった



多くの学生は肯定的にとらえています
が、役に立たなかったという人も少数
(6%)ながらありました。話を聞いてもら
えなかったという回答は0でした。

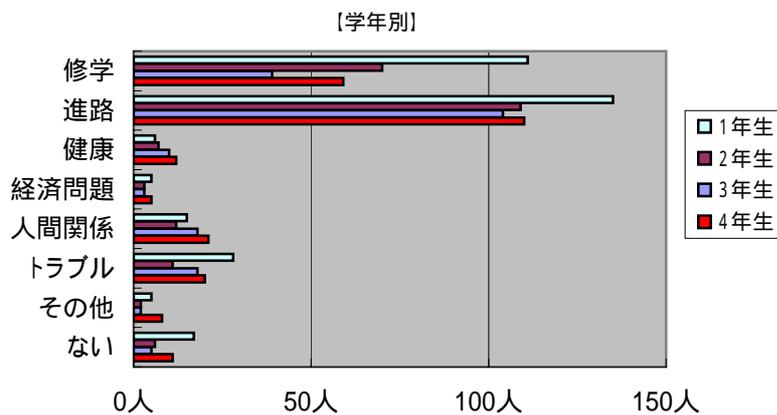
(母数: 本設問の回答者数)

(21) チューターに相談したことがない理由



約6割の人が「相談の必要がなかった」と回答してお
り、順調な学生生活を送っていることがわかります。しか
し、3人に1人は「相談しにくい」「チューターの役割がよ
くわからない」と何らかの不満を持っていることから、
チューターの制度をよりわかりやすく相談しやすいもの
に改善していくことが必要と思われます。

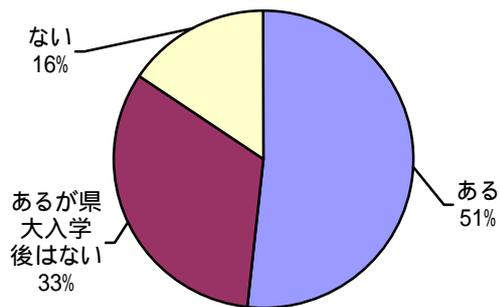
(22) チューターに相談に乗ってほしいこと(複数回答)



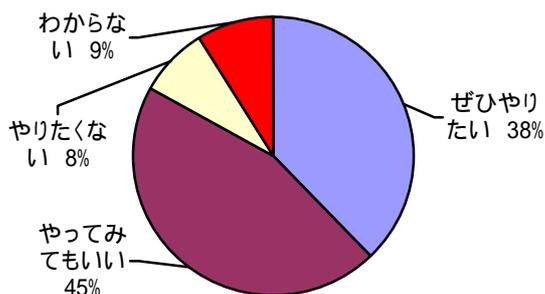
各学年とも進路に関することが第一位でした。進路に関しては、就職相談室とも連携し、チューターが自らも情報を収集して学生に提供していく必要があると思われます。また、1年生では勉学に関することが多く、1年生のチューターはカリキュラムなど勉学関係に焦点をあて、正しい情報提供を心掛ける必要があるでしょう。

【ボランティア活動について】

(23) ボランティア経験の有無

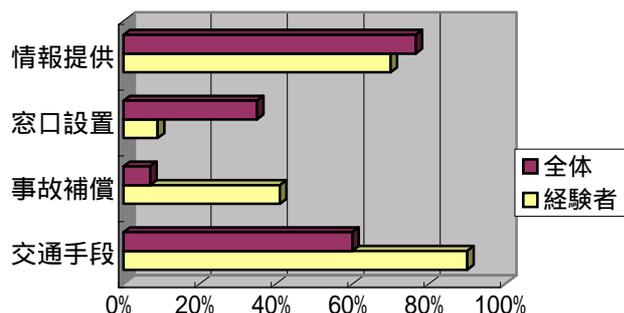


(24) 今後ボランティア活動希望の有無



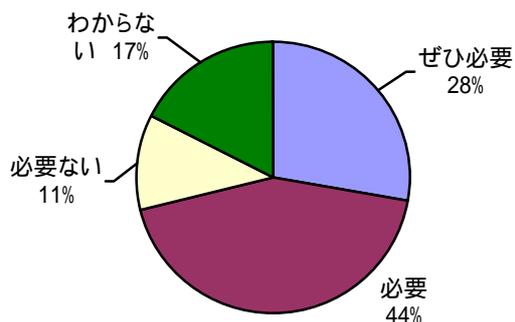
多くの学生がボランティア活動に参加してみたいという意欲を持っているようです。D館西入り口の掲示板にボランティア情報が掲示してありますので利用してください。また、学生ぷちボランティアセンター（通称：ぷちぼら）が、学生みなさんにボランティア情報を提供する役割をしています。大学としても、みなさんの意欲を実際の活動につなぐことができるような体制を整備していく必要があると考えています。わからないことがあったら、学生部やボランティア担当の教員、あるいは身近な教員に気軽に尋ねてください。

(25) どのような条件があればボランティア活動に参加しやすいと思うか(2つまで)



ボランティアはあくまでもみなさんの自主的な活動ですから、活動したい人は実現できるように考えてみてください。保険は、ボランティア活動保険があり、社会福祉学部と看護学部では大学でまとめて加入しています。その他の学部の学生で、ボランティア活動をする人は、各自で加入することをおすすめします。加入方法は学生課に尋ねましょう。

(26) 大学のボランティアセンター設置について



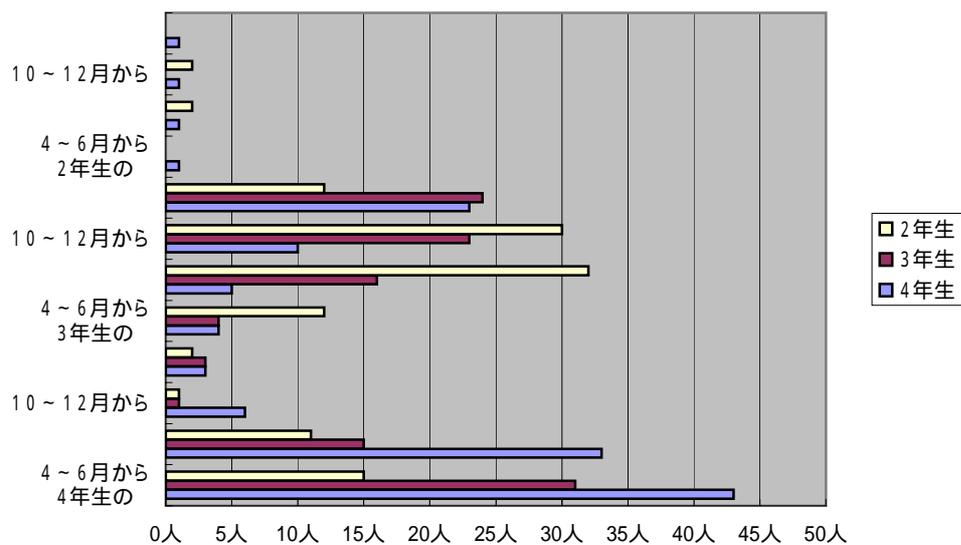
全体の7割程度の学生が、ボランティアセンターの設置が必要と考えています。現在、学生主体で活動している社会福祉学部のぷちぼらを、全学生の支援の場として位置づけていく必要があると思われます。現在のところ、ぷちぼらは学生みなさんの主体的な活動を教員がサポートする形のボランティアセンターです。学生みなさんと地域をつなげるための橋渡し役を担っていますので活用してください。

(ぷちぼらの問い合わせ先: puchi_bora@yahoo.co.jp)

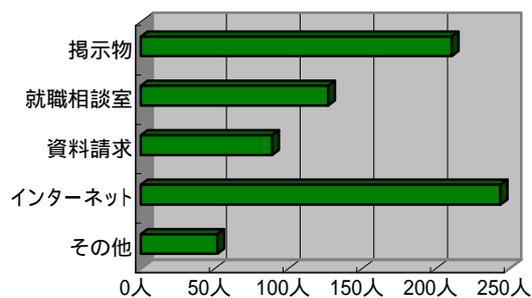
《就職活動について》

2年生以上のみ回答

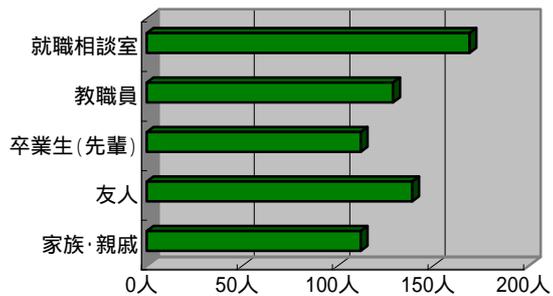
(27) 就職活動の開始(予定)時期



(28) 就職に関する情報収集の方法(2つまで)



(29) 就職に関する情報の入手先(2つまで)



就職活動への不安をなくそう

学内で開催する就職に関わるガイダンス、就職勉強会にはぜひ参加して、“就活”への取り組み方を学ぶことが不安解消の第一歩です。

各地で開催される企業合同就職説明会に参加することが、企業を知る“今”のテーマです。

3年生になったら、友人と共に活動し就職への気持ちを高めましょう。

～ わからないこと、不安なことがあったら遠慮なく就職相談室へ～

** アンケートへの御協力ありがとうございました **